



とつか

2021年12月会報 第326号

- 国際会長(IP) Kim Sang-chaе (Korea)
- 2021 主 題 “Y's Men with the World” 「世界とともにワイズメン」
 スローガン “Heal the World with Love & Dignity” 「愛と尊厳で世界を癒そう」
- アジア太平洋地域会長(AP) 大野 勉 (神戸ポート)
- ~ 主 題 “Make a difference beyond the 100th” 「100年を越えて変革しよう」
 スローガン “Be healthy!” 「健康第一！」
- 東日本区理事(RD) 大久保 知宏 (宇都宮)
- 主 題 「私たちは次の世代のために何ができるか？」 “Think for the next generation.”
- 2022 スローガン「絆を深める時」 “We are stronger together than we are alone.”
- 湘南・沖縄部部长(DG) 若木 一美 (横浜とつか)
- 主 題 「咲かそう 人の輪～明るく・楽しく・元気よく～」
- 主 題 クラブ会長 若木 一美 会長主題 「咲かそう 人の輪」
- 副会長 吉原 訓 書記 加藤利榮 会計 岡 進 ネット 吉原和子 担当主事 瀬戸俊孝

会員ひと言

☆「良い」経験を子どもたちに…☆



湘南とつかYMCA館長 山中 奈子
 先月、末娘(中2)が足首靭帯を損傷し、3週間ほどの松葉杖生活を送りました。学校までは普段10分程度で行ける道のりですが初日は30分かかり、急に雨が降ってきた日はビニール袋をかぶって帰ってきました。そんな娘がこの3週間で一番つらかったことは、体力的にしんどいことよりも「他人に迷惑をかけてしまうこと」だと語っていました。自分が頑張って何とかできることは自分がやればいけれど、他の人より遅くなってしまふこと、そのことで全体に支障が出てしまふこと、そして親切にしてもらえらうほど、なんでできないんだろう、申し訳ない…と重荷となって迫ること。「普通にできること」ができない苦しみを感じた3週間だったようです。ケガ自体は不幸だったかもしれませんが、彼女にとっては本当に「良い」経験だったと思います。子どもは、たくさんの経験をして、人の痛みや喜びを感じながら成長していきます。

YMCAに通ってくる多くの子どもたちが、もっともっとたくさんの「良い」経験をすることができるよう、そして私自身もケガなどしないように(?!)、さらに気配り・目配り・思いやりをしながら頑張っていきたいと思っております。

◎今月の聖句◎

「今日、ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。」

—ルカによる福音書2章11節—

“あと 何日したらクリスマスがやって来るのかなあ…”
 この思いは、子どもたちだけではなく、大人の私たちにもそうした思いを持つようになりました。自分たちにとり将来に喜ばしいこと、楽しいこと…があるのを心待ちにする心、この‘待つ’ことは決して無駄ではありません。落ち着きを身に付けること、この忙しく慌ただしくなりがちな、そしてコロナ禍も一段落のこの季節に、私たちは、‘待つ心’を、是非とも 持ちたいものです…。

強調月間 キリスト教理解・記録

今日8日は、**祈りの輪**の日、ご存知 ワイズの創始者 Paul William Alexander の誕生日、この日を記念して、世界のワイズが「共に祈る時」を…。併せて、ワイズが活動の基本・指針とするクリスチャン・スピリットに思いを致したいものです。また**記録**、書きっぱなし・やりっぱなしでなく、後世に**記録**として…、必要・不可欠ですね…。

会員数	11月の会合		出席率	ファン	B	F	B	F	CS・TOP・A S F	B A P Y	ロ	バ
メ ン	11	メ ン	8	90%	他	(円)	(g)	(円)	(円)	(円)	(円)	(円)
メネット	8	メネット	0		前月迄		0	0	0	0	0	0
		ゲストら	0		当 月		0	0	0	0	0	0
計	19	合 計	8		累 計		0	0	0	0	0	0

★強い義務感を持つよう 義務はすべての権利に伴う★

会長報告



日時：2021年11月16日(火)18:30～20:00
 会場：湘南とつかYMCA 204号室
 出席者：浦出・岡・加藤・柴原・瀬戸・土方
 吉原・若木（以上8名）

1) 報告

- ① 部CS支援金として、ユニリーフを推薦・申請した。
11月27日の部評議会において協議される予定。
- ② 10月24日(日)小田原市郊外の成田周辺でソーラーシェアリング事業に取り組んでいる小山田大和さんを訪ね、ソーラー発電と休耕田の再生利用の現場を見学した。最近とみに叫ばれている「SDGs」(Sustainable Development Goals - 持続可能な開発目標、貧困や不平等・格差、気候変動などの様々な問題を根本的に2030年までに解決することを目指す、国連提唱、世界共通の17項目 - 次頁右下)の一端を学ぶのが、見学の目的でした。参加者は、湘南とつかYMCAのリーダー会のメンバーと吉原・瀬戸・若木の11名が参加し、再生可能なエネルギーと農業の再生について理解を深めました。当日の昼食費をクラブから支援しました。➡

☆ 第2例会報告 ☆

若木 一美

- ③ 東・西日本区と日本YMCA同盟によるSDGsに取り組む35歳以下のユース世代が展開する事業に対して、審査のうえ、最大で20万円を支援する。
- 2) 協議
 - ① 11月27日(土)の部評議会は、関内中央YMCA9階チャペルにて15時から開催する。
若木・岡・加藤の3名が出席の予定。
 - ② 今後(12月・1月)の会合の予定
12月4日(土)：第1例会・リーダー研修報告会
1月18日(火)：第2例会 の2回のみとし、例年の忘年会・新年会・河津桜見学会は、いずれも残念ながら中止とします。
 - ② その他
ア 11月22日(月)の部エクステンション委員会に、加藤・若木の2名が参加の予定。
イ 機会を見て、沖縄訪問を考えたい。
- 3) YMCA 関係
 - ① 現在、e~とつか祭・チャリティーラン(11/20日まで)
 - ② 12月18日：YMCAクリスマス・もみじ坂教会 -以上-

☆ 第2回部評議会から ☆

若木 一美

11月27日(土)・15時から、第2回評議会が中央YMCAで開催されました。今回は対面式のためのため、意見が出てその表情や抑揚で、内容がよく伝わり、意思決定をする場面ではやはり、対面式による効果の方が大きいと感じましたが、部評議会にご参加の皆さん、ご感想やいかに…。



開会セレモニーの後、板崎淑子部書記の司会で議事に…。

- ① 次年度次期部長は、金沢八景クラブの黒川 勝氏に決定。
- ② CS支援金は、鎌倉・幼児サッカー大会に3万円、とつか・点字絵本に3万円、つづき・被災地支援に2万円の支出が決まり、他の1件については実施内容を再検討することも併せて決定・承認されました。
- ③ 毎年恒例の部・YMCA合同新年会は、COVID-19感染予防のため中止が決定されました。
- ④ 明年2月ころ、有志による沖縄YMCA訪問・視察と元ワイズメン関係者との意見交換を実施することが決定。
- ⑤ 部への各クラブからのCS協力・拠出金は次年度から廃止し、各クラブで有効に活用する事に決定しました。
- ⑥ 会員増強計画の見直しが決まり、36名増・新設2クラブ12名、計48名の会員増を明年12月末までに目指す。協議の後、部委員会(事業主査)・各クラブ・YMCAからかなり詳細な報告があり、峯尾部監事から監事講評ののち、定刻の18時前に閉会しました。 - 以上 -

☆ 部エクステンション委から ☆

若木 一美

11月22日(月)18時から関内中央YMCAにおいて、第2回部エクステンション委員会(辻 剛委員長・つづきクラブ)がオンライン併用で開催された。
 当夜の議題及び協議内容は、おおむね以下のとおりであることが提案・協議・確認された。

- 1) 新会員増強目標について
 明年2月末日までに既存のクラブで36名、新クラブ設立では、新たに12名の会員増を目指すこととし、各クラブにおける先細り・高齢化に歯止めを掛けることとしたい。
- 2) 「那覇グローバルクラブ」の設立について
 沖縄に新しいクラブの設立案が提示され、委員会としては明年2月ころに有志で現地を訪問し、その具体策を検討するとともに、それまでの準備として、加藤・久保・浦出・佐藤・若木の諸氏と、かつて現地と頻りに交流していた元会員らにも積極的に声を掛け、準備に入ることとした。
- 3) 保育園を軸としたクラブ作りについて
 板崎部書記を中心に、保育園を軸とした新クラブの設立が出来ないか、雲走和孝保育事業担当職員と古田・秋元・千葉の各委員で検討することとした。
- 4) 「子どもと一緒に絵本を楽しむ会」について
 横浜YMCA傘下の保育園が各処にあることに鑑み、絵本の「読み聞かせ」などが実施できないか…につき、場所・期日などについて、具体的に検討することとした。
 上記4項目については、11月27日開催の部評議会に提議・報告し、周知を図ることとしたい。
 定刻の20時を過ぎて閉会した。 -以上-

【師走随想】

☆ コロナが我々に促すもの ☆

東日本区LT委員長 山下 真 (十勝クラブ)



私は大久保知宏ワイズが東日本区理事の重責を担っておられる期間、ITアドバイザーを拝命しました。特にその任務の中では否応なしにクラブのブリテンに接する機会に恵まれた者となりました。横浜とつかクラブのブリテンからも、元気を分けていただいております。

どのクラブのブリテンもコロナ禍の中で身動きが取れないもどかしさが誌面に溢れていましたが、10月を境にやっと対面での活動への模索が始まり、11月号から堰を切ったように対面での活動する喜びとメンバーや地域の人々との交わりの楽しさが誌面を飾るようになりました。

当地北海道では、既に雪が舞うようなこの時期に春のような躍動感を感じる今を共に感謝しながら、一日でもこのような日々が続くよう、引き続き感染対策に気を付けながら過ごしていきたいと思ひます。

一方で、この試練はワイズの働き方に大きな示唆を与えました。やはり大きなものは各種のリモート会議・イベントの導入です。一人ひとりに与えられた時間と金銭も含めた力には限りがあり、それを支える体制も十分とは言えません。リモート会議やイベントは準備に大きな負担を運営側に強いるものですが、繋がりを維持し、きめ細やかな話し合いの追求こそ魅力的なワイズという組織の強化に必要なものだと考えています。とつかクラブを始めとして湘南・沖繩部はこの間、そこに気が付き、よく踏ん張ったと思ひます。

なお、リモートについていけない多くのメンバーがおられることにも思いを致し、今後どう支えていくかについても私たちは日々思い悩みます。

しかし、一步を踏み出そうとする人々の前に道は必ず与えられると信じています。

皆さん、これからも同じ目的に向かって共に歩みましょう…。再び、皆さまにお会いできる日を楽しみにしています。

(山下様 お忙しい中、貴重なご寄稿を賜り 有り難うございました。)

【会員随想】

☆ ‘あたりまえ’ をゼロから ☆

有田 征彦



私には大学2年の娘がいる。コロナ禍で娘の学年は、多くの学校で卒業式や入学式が取りやめになり、大学生活が始まっても

オンライン授業が行われ1年半以上、実際のキャンパスライフというものを経験していない。もちろん、サークル活動もなく友人もなかなか出来ない現状がある。成人式を控えているが人生の節目に楽しみよりも人が集まり“密”になることへの不安の方が大きいようだ。しかし、本人たちはコロナ以前の大学生活(キャンパスライフ)を知らないため、こちらが心配しているほど悲壮感を持っていない。大学のサークル活動は現在の3~4年生が様々なことを引き継ぐべき下級生がおらず課題に直面しているという。地方出身の学生は更に厳しい状況があり、生活費やアルバイトでの収入の課題は深刻で入学早々休学や退学した学生も多いと聞く。授業以外で4年間の大学生活の内、およそ2年が失われた状態、4学年の内、2学年がコロナ世代となったと考えると、たとえ今後、感染が収束し日常が取り戻されていったとしても、その影響は計り知れないであろう。このことは一例に過ぎず、大学生に限らず各世代や置かれている環境、立場によって様々な影響があることは言うまでもない。改めて私たちが経験していることは歴史的にも大きな出来事であることを思い知らされる。

“アフターコロナ”や“ウイズコロナ”という言葉がある。言葉にするのは簡単だが、私たちが次の時代をポジティブに夢や希望を持って生活していくためには、あらゆる事柄で、これまでの“あたりまえ”をゼロから見直す必要があるのではないか。感染が収束しつつある中で、小さな光を見ながらも、歴史的な変動の時に地域に寄り添い、弱くされている人に寄り添い、ポジティブネットのある社会を目指すYMCAやワイズメンズクラブが果たすべき役割は、一層、大きさを増していくのだと感じている。 - 以上 -

【あんどじゅ通信】

横浜YMCAワークサポートセンター 相馬 良文



ワークサポートセンターアンジュでは、チャリティーランの一環として「鎌倉散歩 10000」を行いました。1年ぶりの外出余暇支援となりました。鎌倉の街並みを楽しむため、お店のロゴマークを探しながら散策しました。鎌倉YMCAで中華弁当のテイクアウトをいただき、午後は、街歩きとお買い物を楽しみました。

予算1,000円で、‘秋のかまくら’を楽しみました。観光地でも、上手な遊び方を身に付けることができたと感じております。

月末には舞岡公園を散策する予定です。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



～第2例会報告(2頁・上段)もご参照ください。～

- ◎ 12月：4日(土)・第1例会 (リーダー報告会)
 - ◎ 1月：18日(火)・第2例会 (当面の事項につき協議)
- ご案内は、瀬戸担当主事から その都度お知らせします。
(☎ 045-864-4768)

Happy Birthday

～ 該当者ナシ ～

追悼

あのタカオちゃんが…



11月20日の布上さんからメール、一瞬、目を疑り、絶句しました。
思い起こせば30年ほど前の1992年6月、私が理事の時に、いち早く区大会ホストの名乗りを挙げたのが東京グリーンクラブでした。『来年、93年がグリーン20周年、記念行事として日本区大会をホストしましょう…』と彼。そして東京九段会館に全国から1,200名が参加し、しかも区始まって以来の1日だけの大会、いまだに語り草になっています。また、彼が理事であった2006年にはとつかクラブのホストで生まれた金沢八景クラブ、仮例会のほとんどに出てこられ、例のアサミ節で…、時にはホンモノのヘビご持参で一座を沸かせ、お陰様で八景クラブは今なお元気一杯にクラブ活動を展開する中堅クラブに発展するまでに至りました。さらに、20回ほど続いた拙宅での「8月納涼会」にはご夫妻が皆出席…、いつのころからか坐る場所まで決まっておりました…。この上はクミ子様を始めご一同様には一日も早い平安の日々の訪れることを心より願い追悼のことばとします。

加藤利榮・明子

☆ ‘良い眠りが認知症を予防する’ を読んで☆

加藤 利榮

この本は、精神科のお医者さんで現在も甲府市内にクリニックを開設され、しかも甲府21クラブのメンバー、クラブの初代会長もされた功刀 弘先生の著書、先ごろ同クラブの駒田さんからお贈り頂いたものです。

手に取って見て、こういう書物に有り勝ちな専門語の並ぶオカタイ本だろうと…。処が然に非ず…、読むほどにその中味に一々思い当たることばかり、間もなく目が離せなくなり、終いにはメモを取るまでに…。こりゃあ独り私だけでなく、ワイズの皆さんにとっても是非 お目通し願いたい良書、これから毎月、この欄を借り、‘思い当たる’以下の項目について紹介させていただこうと思立ちました。

- 1) 統合失調症と5大疾患
- 2) レム睡眠とノン・レム睡眠の適正な比率
- 3) 規則的な睡眠をとる生活習慣
- 4) いわゆる‘良い眠り’とは…。
- 5) 良い生活習慣を保つには…。

等々。その都度、功刀先生のご意見を頂きながら、良書からのウケウリを十分承知の上、来月から、この欄に順次、登載を予定したいと思います。

なお、功刀先生から次のご提言を頂きました。

『80歳を超えた私の皆さまへの心からの提言です。』

この本の出版を機会に全国の「いのちの電話」活動にも利用してほしいと考えて全国の活動拠点に本を送りました。

その結果、地元の山梨では1月15日に「良い睡眠が認知症を予防するー良い眠りが自殺予防にも欠かせないー」の公開講座を予定しています。

2月13日には静岡市でも同様の題での講演を予定しています。』

《後記》

早やシワスの候となりました…。

さて、この第4面の構成を1月号から少し変えてみようと考えております。たまたま、今号も少々…、コロナ禍の一刻も早い収束を願って… というタイミングのなかで…。

Change!2022～

(T/K)

☆ 今月の歳時記から ☆

‘羽子板市 はごいたいち’ と ‘霜柱 しもばしら’

‘羽子板市’は、その歴史は古く、江戸時代の貞享(1683～87)年間の頃。江戸・浅草観音の年の市に見られたという。

現在では、12月17日・18日の浅草観音と、27日・28日の中央区両国(旧薬研堀)の不動、それに京都は新京極付近の羽子板市が有名。

戦後はデパートや玩具店などに、豪華に飾り立てられて売られている。

うつくしき羽子板市や買はで過ぐ	虚 子
よその子に買ふ羽子板を見て歩く	風 生
足止めて羽子板市を押されつつ	蘇 城
押し合ふて羽子板市の浅草寺	幹 夫
上段の羽子板売れしどよめきよ	翔 鶴

‘霜柱’は、晴れた厳寒の日に、地表の水分が氷って細かい柱状となったもので、群立して土を持ち上げる。湿気の多い柔らかい土質に多く生じ、砂地や粘土には生じない。朝早く靴で踏むとザクザクと音を立てる。

10～20センチにも及び、畑や庭を荒らす。霜の多い朝にできることが多いので、この名があるが、霜とは何ら関係がない。

霜柱ざくっと梯子立てにけり	唐 淵
霜柱歓喜のごとく倒れゆく	朱 鳥
むらさきは月の匂ひの霜ばしら	葛 彦
霜ばしらしらさぎ空に群るるなり	万太郎
霜柱立つ日立たぬ日家にあり	素 十

